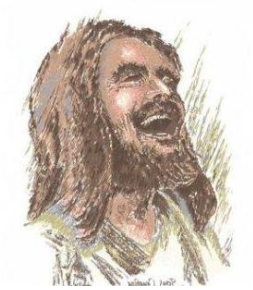
# 「かつては、しかし、今は」

エペソ人への手紙　２章１～５節



先週の礼拝では、使徒ペテロが書き送った手紙の最後のところから「神の恵み」に思いを向けました。「神の恵み」とは、ふさわしくない者に対して無条件で与えられた神の愛のことです。その「神の恵み」の原則が私たちの人生のすべてを貫いているのです。私たちが救われたのも、そしてやがて完全に救われるのも、神の恵みによるのです。今日はそのことについてパウロが明確に書いているところを読みましょう。次の三つのポイントをあなたの人生において確認してください。

## ① かつては、神から離れて「死んでいた」私

“…あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり…” 1

“かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。” 2-3

## ② しかし、今はキリストとともに「生かされている」私

“背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。” 5-6

“ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従ってはいけません。また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。” ﾛｰﾏ 6:12-13

## ③ そのように救われたのは、神の恵みによる

“しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに…” 4

“神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。…このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。” 1:5,7

○思い巡らしてみましょう

・パウロは、神から離れていた私たち人間の状態を「死んでいた」と言っています。神との生きた関係が切れていたということでしょう。死んでいるために、流れには流されるままですし、罪や欲の力にも抵抗する力はなかったというのです。このことを自分の体験として考えてみましょう。